

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、誰もが見えるところに掲載し、勉強会、ユニット会議を通し、実際のケアにどのように生かしていくか考えながら取り組んでいる	企業理念と創業理念を基にしたホームの理念があり、更に、それを基に各ユニット毎にスローガンの意味合いの強い理念を作成し各ホールに掲示している。ユニット会議や勉強会で自分たちのケアを振り返り理念の意識づけをし、統一したケアが提供できるように、日々、努力を重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアさんに来ていただいたり、地主さんの畑と一緒に野菜を収穫させてもらったりしながら施設内だけで生活が完結しないように努めている	引き続き自治会に加入し会費を納め、自治会の役員や民生委員から地区の情報を得ている。ホームからの情報は毎月便りとして地区に回覧し、評判が良いという。ホーム隣の地主さんのご厚意で畑から野菜を収穫させていただき、地域の方からも漬物や梅などのおすそ分けがある。また8月には高校生のボランティアの来訪があり、敬老会には民謡やオカリナ演奏のボランティアの来訪もあり、利用者は楽しいひと時を過ごした。地域の文化祭にも利用者が参加し楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ボランティアさん来所時に、利用者様と触れ合っていたり、自分達の仕事がどんなことかなどを理解していただく機会を持っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、会議の間に施設の状況報告を行ないいただいたアドバイス等はユニット会議において職員に伝え、日々のケアに生かしている	会議は奇数月の月末の委員の都合の良い日の14時～15時に行われている。家族、民生委員、地域の方、市役所担当課職員、スタッフで構成され、活動報告や利用者状況報告、意見交換などを行っている。家族には毎回声掛けし、2～3名の家族が参加している。会議で出された要望はすぐに職員間で検討し改善するようにしている。9月の敬老会には運営推進会議のメンバーにも参加していただき利用者の様子なども見ていただいた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し、市の職員さんに施設の状況を知っていただき、相談できる関係づくりに努めている また、認定更新時、利用者様の暮らしを伝え、連携を深めている	施設の空き情報など随時電話やファックスで伝えている。介護認定の更新調査はホームで行われ、家族が立ち会ったりスタッフが立ち会い、利用者の状況を伝えている。市町村が主催する研修会などには、できる限り参加するように心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行ない、職員の理解を促している 体動センサーにおいても身体拘束にならないか十分話し合った上で導入している 玄関の施錠においても職員と一緒に自由に出入できるように配慮している	転倒事故防止の為、家族の希望もありセンサーマットを使用している方がいる。使用に際しては事前に家族とスタッフで話し合っている。また年間研修計画として不適切ケアの研修が毎年あり、人権意識を高めている。最近、法人で開発した居室の温度・湿度、利用者の状況が文字情報としてわかるモニターを導入し、事故防止に役立っている。	

グループホームかたくり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で職員の理解を深めながら、利用者様の表情、言葉に変化がないか申し送りやユニット会議において話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行ない、制度の理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安な事や疑問点などを聞きながら十分な説明をしている わからない事はいつでも聞いていただけるように案内している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に匿名で書ける意見書を用意しており、面会時にも直接スタッフにも言っていたるように関係を築いている いただいた意見は職員と共有し改善に繋げるよう努めている	ほとんどの利用者が意思表示できるが、数名の方が言葉としての意思表示が難しく表情や仕草から推察するようにしている。家族の来訪は頻繁な方や盆・正月に来られる方など様々だが、些細なことでも報告するようにしている。また、家族から出された意見に対してはすぐに職員間で話し合い対策を講じるようにしている。定期的に便りを発行し、家族とのコミュニケーションを図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は管理者が窓口となり面談時などで考えに至った理由をきちんと聞き意見の反映に努めている	管理者会議、リーダー会議、ユニット会議がそれぞれ月1回開催され、ユニット会議では管理者会議での報告事項の伝達や勉強会、利用者状況の検討などを行い、活発な意見交換が行われている。管理者と職員の面談が年2回行われ、チェックシートによる自己評価を基に面談したり、スタッフの思っていることなどを聞き、お互いの方向性をすり合わせ一つにするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課面談を行ない、職員の意見、己の取り組みについてアピールできる機会を設けている また、困り事、悩み事など管理者、主任に相談できるよう関係づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の勉強会、会社全体での研修を通し、知識や技術の向上に努めている 外部の研修についても案内がある度に掲載し興味のあるスタッフは参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心に地域の施設職員との交流の機会を設け、勉強会などを通じ、ネットワークづくりの努めている		

グループホームかたくり

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活歴等の情報を元に入居後も本人がどのような生活を望んでいるか、また何に困っているのか、面会者との会話から見つけ出す努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族来設時にはどの職員にも不安な事や要望を気軽に言っていただけるよう努力している また職員からも日常の生活の様子をいつでも伝えられるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが入居前にご本人、ご家族と面談を行い本人や家族の思い、必要な事を見極め、職員に情報提供されるケアの中での気づきはケアマネに伝えられ必要としている事を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット会議などで本人ができる事、できない事を見極め、できる事に関しては一緒に行ったり、時には利用者様に助けて頂く場面もあり、お互いに支え合える関係を築けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に変化のあった時は勿論、ご家族が来設の際は利用者様の様子を伝え、ケアマネを中心にご家族の利用者様への思いを聞く機会を作るよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも職場の同僚、同級生、近所の方など馴染みのある方の訪問があり、その際にはゆっくりと話しができるように場所の配慮をしている 訪問のあった際にはご家族にも伝えている	誕生日に花束を持参していただく馴染みの方を迎え入れている利用者がいる。数名の方が正月に帰省したり、お墓参りに出掛けている。また若干名ではあるが馴染みの美容院でカットし、エステにも出向いている利用者がいる。利用者から希望があれば事務所で自由に電話を掛けることができ、昔からの関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じ、職員が間に入りながら利用者様同士が会話を楽しみ、支え合える関係でいられるように努めている		

グループホームかたくり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの希望があれば対応できるように準備している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いは違うので良い反応だけでなく不快な反応も含め、本人の目線からの思いを知る事を大切に、カンファレンスを行っている	本人の希望や家族の要望、アセスメントからの情報などを基に意向や思いの把握に努めている。当初アセスメントした情報と現状にズレが生じた時は随時検討し、現状に合わせた対応をするようにしている。6月に研修の一環として職員が車いすに座って過ごす体験研修があり、普段現れない利用者の気持ちを知ることができたという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設利用以前の暮らしの情報をご家族やその時のケアマネからもらい、支援をする中でそこにはない本人の姿を知るため、入居後もご家族等に聞きながら馴染みのある習慣など継続できるよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度のユニット会議で日々、状態に変化のある利用者様の中で特に変化があった方はケアマネを交えカンファレンスをし、現状に合った生活ができるよう全体像の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護記録やユニット会議において、利用者様の現状をしっかりと把握し、介護計画作成時にケアマネからご家族に現状の報告をし今後のケアの方向性を相談している	居室担当制をとっており、職員は1～2名の利用者を受け持っているがノートの活用などにより2ユニット全体の利用者を把握している。介護計画は短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月で設定し、本人の状態やつぶやき、家族からの情報を基に毎月のユニット会議でモニタリングしている。また状態に変化があるときは随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者様の表情、仕草、言葉等を記入するよう心がけ、その中で気付いた事はユニット会議においてカンファレンスをし、新たなケアにつなげる努力をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すべての職員がご家族と話すことで様々な意見を聞くことができケアマネを中心にその方に応じたケアにつながるよう努力している		

グループホームかたくり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設職員と利用者様のみで生活が完結してしまわないように施設職員以外の来訪が定期的にあり、利用者様が迎え入れ見送りをする姿が見られる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が受診の付き添いをする場合は状態を説明し、受診の様子、結果等をご家族に確認し、職員間で情報を共有している	利用者のうち三分一の方が利用前からのかかりつけ医を継続しており、受診の際は家族が付き添っている。ホームでの状態が記載された受診カードを持参し、受診後には家族から結果の申し送りも受けている。提携医をかかりつけ医としている利用者には提携医の往診が月1回ある。また訪問看護が週1回24時間体制であり、歯科希望時には歯科医の往診も可能となっている。現在、ほぼ半数の方が歯科衛生士の指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化につながりそうな時は早めに訪問看護師に相談し、指示を仰いでいる また夜間の急な受診にも対応できるようオンコールスタッフを設け、看護師との協働を計っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早期に退院ができるようケアマネを中心に面会に行き、担当看護師に様子を聞き、状態を把握している 退院時にはケアマネがカンファレンスに参加し、その際、退院後のケアの方向性を話し合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が見込まれる場合は、ご本人、ご家族、主治医、訪問看護師とカンファレンスを行い、終末期においては利用者様の気持ちを汲みながら、どういった最期を迎えていくかご家族とのカンファレンスの場を設けている	法人としての看取りの指針があり、入居時には説明をしている。この1年で3名の利用者の看取りを行った。家族、医師、看護師、職員間で連携を取り、職員は些細な変化なども医師や家族にその都度報告し、事前の連絡体制も確認し慌てることなく穏やかな看取りをすることができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し救命講習を受け、全ての職員が対応できるようにしている また、緊急時の対応マニュアルを用意し、いざという時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受けながら避難訓練を実施し、地域の防災訓練にも参加をし少しずつ地域の方々との交流を持ちながら災害時に備えている また、運営推進会議でも協力を呼び掛けている	年2回、消防署立会いの下、昼夜想定訓練を行っている。AED使用方法の確認や毛布で利用者を移動する方法なども試している。回覧板で地域の方にホームの防災訓練への参加を呼び掛けたり、9月の地域の防災訓練には職員が参加している。現在利用者用の反射ステッカーや防災メールの導入を検討中で、介護用品や食料品の備蓄もあり補充や入れ替えも行っている。夜間のマニュアルも整備されている。	

グループホームかたくり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時でも利用者様の気が向かなかったり、嫌だと感じる時には無理をせず、利用者様の思いを汲むにはどうしたら良いか考え、声掛けなど工夫している	接遇に関しては勉強会やユニット会議、日々の申し送りで確認するようにしている。言葉で制限したり、馴れ合いになってしまわないようにスタッフ同士で注意し合い、ユニットを交代するなど、柔軟に対応している。男性スタッフが入職し、最初の内は異性介助に注意を払ってきたが、現在は問題なく受け入れられている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めた事を押し付けるのではなく、利用者様の表情や反応から気持ちを探り、利用者様が自分で決められる場面を作ってもらえるように努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合に合わせた生活にならないよう、利用者様のペースに合った生活ができるよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り、洗顔、化粧など、利用者様が出来る事はしてもらい、出来ない事は手伝わせていただきながら気持ち良く過ごしていただけるように努めている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自らキッチンに入り食事の用意を職員と一緒にしてくれたり、片付け等を日課にしている利用者様もあり、その際の味見や職員との会話も楽しみとなっている	食事形態はミキサーの方が三分の一、刻みの方が若干名で他の方は普通食である。また、数名の方が全介助である。献立は職員が立て、約半数以上の方がお手伝いをしている。誕生日や行事の際にはちらし寿司を作ったり希望の食事を提供し、外食へ出かけることもある。また、随時お好み焼きやホットケーキ作りなどの調理レクも行っている。食前には口腔体操を行い、口腔機能の維持に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は毎日、記録に残し食事の好みを把握し、どうしたら食べてもらえるかなど工夫をし、一日の中でその人に合った量が摂取できるようにしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を理解し、利用者様によっては訪問歯科を利用している方もいるので、ケア方法のアドバイスをもらい、どのスタッフが行っても同じケアができるように努めている			

グループホームかたくり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を使用し、排泄パターンの把握に努め、トイレや声掛けのタイミングを探りながら使用物品の工夫をし、その方に合った方法やペースで排泄ケアができるように努めている	全体で布パンツ使用の方が数名、リハビリパンツの方が約半数ほどで、他の方がおむつ使用となっている。夜間のポータブルトイレ使用者が数名いる。職員は排泄パターンの把握に努め、それぞれの利用者のペースに合わせた。排泄用品の使用に関してはその都度家族に相談しており、本人・家族の負担が軽減するように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を理解した上で、食事の工夫や水分摂取を促している また、その方に合った整腸剤の処方等、医療面からの支援も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ユニットによって決まった日があるが、本人の体調、気分に応じて、それ以外の日でも入浴できるよう支援している その際、羞恥心に配慮し、気持ちよく入浴できるように努めている	入浴はユニット毎に曜日が決まっており、少なくとも週2回入浴でき、本人希望時や外出後等入浴される方もいる。若干名の方がほぼ自立で他の方は介助が必要となっている。入浴設備はリフト浴と一般浴があるが、現在リフト浴は使用しておらず、必要な方は職員の二人介助で対応している。入浴中には目線を合わせリラックスできるようにしている。入浴を拒否される方にはスタッフを変えたり、時間をおいて誘うなど臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通し、好きな時に休みたい場所で自由に休むことができるようにしている 夜は利用者様が眠くなったタイミングで休めるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬の内容を把握し、変化がないか様子を見ている また誤薬、投薬漏れがないよう職員同士、確認しながら行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の会話の中から得意な事、好きな事を探り、日常生活に取り入れるようにしている 時には、ご家族の協力を頂き、外出の機会を持って頂いたりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に応じてテラスでの日向ぼっこ、ドライブ、花見などを行ない、出かけられる時は、近所のスーパーに買い物に行き、地域の方と触れ合う機会を作っている	車いす使用の方が約半数おり、若干名の方が歩行器使用である。近所のスーパーへ買い物に出掛けたり、玄関ポーチに出て山々や花を見たりしている。また時々、散歩に出掛けている。利用者の高齢化や身体状況の変化により集団での外出の機会が減ってきているが、年間行事としてお花見やバラ園見学、芋掘りなどへ出掛けたり、日常的にはテラスに出てお茶会をしたり地主さんの畑で野菜を収穫し、外気に当たるよう努めている。	

グループホームかたくり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個人でお金の管理をしている方はいないが、利用者様の中には、いつも持ち歩くバッグの中に現金を持っており、手元にある事で安心に繋がっている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力を得ながら、利用者様からの希望がある時は電話で話しができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った季節に合った飾り付け、花などで季節感を感じていただける工夫をトイレ、浴室は特にわかりやすく貼り紙をし、混乱をまねかないよう工夫している	ホール内には季節に合わせた飾りつけがあり、壁には行事の写真などが貼られている。トイレは各棟に2ヶ所ずつあり、その内1つは車椅子でも楽に入ることができる造りになっている。浴室には一般浴槽とリフト浴槽があり、一般浴槽は3方向から介助できる造りとなっている。ホールから広いテラスに出ると、テラスから直に地主さんの畑へ行くことができる。各棟間も自由に行き来することができるため、利用者は居心地よく過ごせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中でも少人数で過ごせるスペース、皆で過ごせるスペースを作り、その時の気分に合わせて利用者様の過ごしたい場所でくつろげるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具を置いたりしている 利用者様によっては本人の部屋とわかるように目印をつけている人もいる 居室が居心地の良い場所になるように努めている	ベット、クローゼット、エアコンが完備され、周りに大きな建築物がないため、窓から四季折々の景色を見ることができる。また、使い慣れた馴染みのタンスが置かれ、家族との写真なども飾られ、生活感が感じられた。におい対策として脱臭機が廊下に設置されており、訪問日には全くにおいはなかった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、歩行の妨げになるような物は置かない空間の工夫をし、トイレ、浴室にはわかりやすいように貼り紙をし、利用者様によっては居室に名前を貼りわかりやすいように工夫している		